

## マジックマッシュルームで幻覚作用

2005年12月27日(火)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: vermeer@pa3.so-net.ne.jp

### ～要 旨～

麻薬及び向精神薬取締法や薬事法の規制を受けることなく、「気分が落ち着く」、「恍惚となる」など違法ドラッグと同様の感覚が得られる「合法ドラッグ」、「脱法ドラッグ」に手を出す若者は多い。法律に抵触しないうえ、値段が手頃でインターネットやアダルトショップ、輸入雑貨店などで簡単に入手できることが、少年たちによる乱用を引き起こす原因となっている。とりわけ、2002年6月6日に麻薬取締法による規制対象に加えられた「マジック・マッシュルーム」については、野放し状態となっていた97年から2001年までの数年間、若者を中心に乱用が爆発的に広がり、数々の事件が起きた。

合法ドラッグ、脱法ドラッグについては、政策当局が規制をかけて違法ドラッグに指定しても、供給側が 名前を変えたり 中身がどういうものであるかを知らなかったことにして販売するほか、類似の成分を含有しながらもまだ規制の網が張られていない新しいタイプのドラッグが次々に上陸することから、その氾濫に歯止めがかからないというのが実情だ。合法、脱法ドラッグの蔓延が深刻化していることから、自主的に規制に乗り出す自治体も出てきた。東京都は、2005年4月に脱法ドラッグの製造・販売を禁じる条例を制定した。2005年12月には脱法ドラッグの販売業者に対して初めてこの条例が適用された。埼玉県も2006年度から脱法ドラッグに対する規制を強化する方針を固めている。

### (危険な脱法ドラッグ)

麻薬及び向精神薬取締法や薬事法の規制を受けることなく、「気分が落ち着く」、「恍惚となる」など違法ドラッグと同様の感覚が得られる「合法ドラッグ」、「脱法ドラッグ」に手を出す若者は多い。法律に抵触しないうえ、値段が手頃でインターネットやアダルトショップ、輸入雑貨店などで簡単に入手できることが、少年たちによる乱用を引き起こす原因となっている。

とりわけ、2002年6月6日に麻薬取締法による規制対象に加えられた「マジック・マッシュルーム」については、野放し状態となっていた97年から2001年までの数年間、若者を中心に乱用が爆発的に広がり、数々の事件が起きた。マジック・マッシュルームは、食べると幻覚症状が出る麻薬成分を含む幻覚キノコの通称。

1998年7月には、マジック・マッシュルームを大量摂取した東京都内の女性(19)が死亡。2001年4月には俳優の伊藤英明さん(当時25)がマジック・マッシュルームを食べて暴れ出し、救急車

で病院に運ばれた。また、2001 年 12 月には、脱法ドラッグを飲んだとみられる少年(16)が、老人に刃渡り約 20 センチの包丁とスタンガンを突きつけるという事件が発生した。

大量摂取による危険が認知され、規制が設けられた後も、マジック・マッシュルームを巡っていくつかの事件が発生している。2002 年 8 月には、マジック・マッシュルームをインスタントの味噌汁に入れて食べた 18 歳の少年が裸で自宅倉庫の屋根に上るという事件が起きた。この少年はインターネットでマジック・マッシュルームを一袋 3 千円で購入していた。また 2002 年 10 月には、マジック・マッシュルームの一種「ヒカゲシビレタケ」約 0.6 グラムを自宅に隠し持っていたとして、札幌の専門学校生の少年(16)が逮捕された。

### (東京都は条例によって規制を強化)

合法ドラッグ、脱法ドラッグについては、政策当局が規制をかけて違法ドラッグに指定しても、供給側が 名前を変えたり 中身がどういうものであるかを知らなかったことにして販売するほか、類似の成分を含有しながらもまだ規制の網が張られていない新しいタイプのドラッグが次々に上陸することから、その氾濫に歯止めがかからないというのが実情だ。東京都が実施した調査によれば、都内の繁華街では、現在、合法ドラッグや脱法ドラッグが 1000 円から 1 万円程度で販売・取引されているという。合法、脱法ドラッグを販売している店舗は少なくとも 100 軒に上る。

合法、脱法ドラッグの乱用は、覚せい剤などの違法ドラッグへの入り口になるともいわれ、少年による安易な乱用が危惧されている。合法、脱法ドラッグの蔓延が深刻化していることから、自主的に規制に乗り出す自治体も出てきた。東京都は、2004 年度から健康被害の恐れがありながら法律による規制の対象外となっている「合法ドラッグ」、「脱法ドラッグ」について、専門家で構成する委員会を設置した。この委員会は法律に抵触しないドラッグであっても、人体への影響を見極めたうえで、製品名の公表や販売自粛要請などの指導を行なう。さらに東京都は、2005 年 4 月に脱法ドラッグの製造・販売を禁じる条例を制定した。2005 年 12 月には脱法ドラッグの販売業者に対して初めてこの条例が適用された。埼玉県も 2006 年度から脱法ドラッグに対する規制を強化する方針を固めている。